

わたしたちの 円山動物園



札幌とともに、半世紀以上の歴史を刻んできた円山動物園。
幼いころに体験した感動や興奮を今でも覚えている方も多いでしょう。
しかし、長い歴史の中で、円山動物園は多くの課題を抱えるようになりました。
円山動物園の今と、新しく生まれ変わるための
取り組みを一緒に見てみましょう。

このページに関するお問い合わせは 円山動物園 ☎621-1426

一九五一年 (昭和二十六年)	五月 円山児童遊園として、こどもの日に開園	一九五三年 (昭和二十八年)	九月 円山動物園に改称	象の花子来園	一九六五年 (昭和四十年)	年間入園者数が百万人を超え、全国第七位となる	一九六六年 (昭和四十一年)	熱帯動物館が完成し、冬季開園を実施	一九七四年 (昭和四十九年)	ゴリラのゴン来園 この年の年間入園者数は過去最高の百二十四万人	一九八二年 (昭和五十七年)	サル山が完成	一九九二年 (平成四年)	レストハウスが完成	一九九五年 (平成七年)	円山子供の国「キッドランド」が中島公園から移転オープン	一九九八年 (平成十年)	動物園センターが完成	二〇〇五年 (平成十七年)	年間入園者数は四十九万人。五十万人を割ったのは昭和二十九年以来	二〇〇六年 (平成十八年)	四月 行政監査において多くの問題点を指摘される
-------------------	--------------------------	-------------------	----------------	--------	------------------	------------------------	-------------------	-------------------	-------------------	------------------------------------	-------------------	--------	-----------------	-----------	-----------------	-----------------------------	-----------------	------------	------------------	---------------------------------	------------------	----------------------------

この移動動物園の大成功を受けて、「札幌に動物園を」という市民の声が急速に高まりました。そして、翌年には市議会でも条例が可決され、全国で十番目の動物園として誕生したのです。

一九五〇年（昭和二十五年）の夏、円山公園の坂下グラウンドにおいて、上野動物園からの移動動物園が開催されました。終戦から五年後という時代に開催されたのは、戦争に疲れた市民の心を和らげるためであったともいわれています。
移動動物園は空前の出入でにぎわい、人々はおりの前から一歩も動かさずに、動物たちを食い入るように見つめていました。

市民の声で誕生した 円山動物園

歴史



上：昭和26年の開園当初、オートスクーターに乗る子供たち。柵外には子供たちがあふれている
下：昭和28年、街宣車による宣伝風景。春の開園を告げる動物パレードも行った

入園者数124万人

開園当初は動物園ではなく、児童遊園という位置付けでした。動物も、ヒゲマワシの三種四点のみ。

その後、動物の飼育数を増やし、施設整備も進めることで、札幌市民の憩いの場としての地位を確立。一九七四年（昭和四十九年）には、当時の札幌市の総人口に匹敵する約百二十四万人もの入園者が訪れるまでになりました。



人気の高かったカンガルーのボクシング。象やアシカ、チンパンジーなどの芸も昭和42年まで披露していた

